

残暑お見舞い 申し上げます

ALSOKあさひ播磨株式会社
社長 山崎次郎



私は、浜田に移って来てから三ヶ月です。前勤務地は宮城県の仙台でした。あの大変な東日本大震災を体験してきましたが、大自然の前では人間は全く無力であるというのを改めて思い知らされた次第です。浜田に来てからは、「夜はグッスリ眠れる！」という幸福感を改めて実感しているところです。

私の故郷秋田県では毎年八月の第四土曜日に「大曲の花火」が開催されます。百年余りの歴史があり、大正四年からは「全国煙火競技大会」と名称を変え、全国規模の大会となりました。昭和五三年からは、「昼花火競技」も新たに加わり、現在、昼花火競技を行っているのは、全国でも大曲だけとなっております。

大会当日は、七〇万人余りの観客が詰めかけ(旧市内の人口は三万人余り)、早朝から深夜まで市内は通行止めとなり、大パニック状態となります。最優秀賞には、「内閣総理大臣賞」が授与され、花火師にとっては最高のステータスとなっております。
残暑はこれからが本番、健康管理には十分注意され、皆様のますますのご活躍をご祈念申し上げます。

節電対策

三〇度を超える猛暑日が続く中、家庭でも企業でも節電が必要とされています。当センターでも節電のため、様々な取り組みを行いました。

★必要最低限の明るさを確保し、業務に支障の無い電灯を取り外す。

★各所に節電に関するポスターを貼り出し、個人の意識を高める。

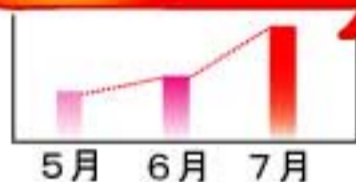


★エアコンを使用する際は常時二八度に設定する。

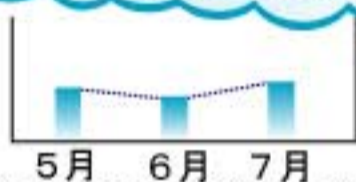


これらの取り組みをした結果、電気使用量は前年に比べて、減少しました。

5月→6月：5.9%の増加
6月→7月：12%の増加



5月→6月：2.8%の減少!
6月→7月：わずか2.7%の増加にとどまりました!!



今後センター全体で節電に取り組んでいきます。

被災地支援

5月27日から6月13日まで、当センターから2人の刑務官が、東日本大震災で被災した宮城県石巻市に派遣されました。

現地では主に避難所での被災者の声を聞いたり、役所間の連絡調整を行ったり、支援物資の管理などの活動を行いました。

派遣された2名の職員から、実際に被災地へ行った際の感想を聞きました。

S 看守部長

被災者の方々を少しでも勇気づけ、助けることができれば、という思いで宮城へ赴きました。

現地では小学校に避難している被災者の皆さんの生活の支援をしましたが、地元を復興させようと一生懸命に暮らしている被災者の方々に、むしろ私の方が勇気を頂きました。本当に貴重な経験をさせていただきました。ここでの経験を今後の勤務にも活かしたいと思えます。

T 看守

宮城県へ支援活動に行かせていただきました。被災地がまだ瓦礫の多い中、復興に向けて毎日頑張っている被災地の皆さんの姿には本当に感動しました。そして、地獄のような震災当日の話を聞いたとき、ただただ涙をこらえることしかできませんでした。そんな方達のために、何か少しでも自分が役に立てたなら、それに勝る喜びはありません。

民間協力者表彰

七月二十九日(金)、浜田地区更生保護女性会の更生保護活動に対し、松田センター長から高木禮為子会長へ感謝状の贈呈を行いました。同女性会は、五支部(浜田・金城・旭・弥栄・三隅)、会員数二〇七名で活動されており、当センターは、平成二十二年三月から現在までの間、更生の願いを込めた「ふくろう」の縫いぐるみ、計一二六九個の謹呈を受けています。この縫いぐるみは、訓練生の出所に手交され、訓練生は、縫いぐるみとともに、女性会の皆さんの暖かい想いを胸に社会に復帰することとなります。

このように、島根あさひ社会復帰促進センターは、多くの民間協力者の方々に支えられ、運営を行っています。



更生の願いを込めた「ふくろう」の縫いぐるみ



浜田地区更生保護女性会 高木 禮為子 会長

